

科学技術の諸方面でいろいろと挑戦している読者には、「出る杭(く)を打つな」の思いを持った方も多いのではないかと。その彼・彼女らの独創精神にささやかな応援メッセージを送りたい。

出る杭を打つな 井の中の蛙に世界は見えぬ

が国際社会を先導した「ヒューマンフロンティア・サイエンス」プログラムを立ち上げたときは、多くの人から「国際プログラム」の前に、その予算を国内にまわせ」といわれた。直近の出来事としては、新しい教育理念に基づく横浜サイエンスフロンティア高等学校を立ち上げ、すでに国際的な高い評価を得ているのに「公立高校は国際性を持たなくてはならない」。

平成 28年 3月 8日

誰もがしないことをする、つまり独創には勇気がいる。勇気といえはウィンストン・チャーチルだ。第2次世界大戦初期から英国首相として戦争の最高指導に当たり、その格調高い名演説で自由世界を鼓舞激励して勝利に導いた。戦後は6巻にわたる「第2次世界大戦」を著すなどして1953年のノーベル文学賞を受賞している。

よく考えた勇気 精神活動の最高位

が伴う。間違っていたら恥ずかしい、みっともない」といった気持ちに襲われる。でも「よく考えた勇気」を持つて挑戦すれば、恥ずかしいことではないし、失敗しても評価されるのだ。

平成 28年 3月 15日

研究には大きく分けて問題解決型と問題発見型がある。解決型研究で大切なのは、考えるに値する問題が見つかり、その要素となる物事をはつきり把握していることだ。この当然ともいえる出発点さえしっかりしていれば、あとはいろいろと工夫をして問題を解いていけばよい。

警視庁型とアマゾン型 行きつ戻りつ良い研究

の上流だけに限らず大学や研究所の実験室の中にあり、そういう新種を探る研究が、アマゾン型だ。いるかないか分からない新しいものを探すのだから、アマゾン型研究の特徴はテーマが与えられるのではなく「地域」が与えられるのだ。たとえば物理学の場合は、それはどこでもよい。自然界にあるすべての物質とエネルギーが対象だから、自然界の全部が、その「地域」である。化学の場合は物質世界、生物学では生命世界が一応その地域と考えられる。しかし今日のサイエンスは従来の分野を超えて広がりがつあるから、警視庁型とアマゾン型、まったく別の2つの型があると思ってしまうのは発展がない。また地域もあらかじめ自分から絞ってしまう理由はひとつもない。

平成 28年 3月 22日